

17. 'RAVeL' : ベルギーの'Wallonia'における Soft Mobility Network

トピック : 既存の鉄道路線・運河の有効利用

特徴

ネットワークという発想を中心に、使われていない線路や運河を歩行者や自転車等が通行できる通行帯へと改良し、地域・国境を越える人々の新たな移動形態を生み出した。

< ネットワークの概要と意義 >

'RAVeL'は、'Wallonia' (地名) を東西南北 25,000 キロメートルにわたりカバーする連続した移動ネットワークであり、廃線化された鉄道路線や運河の引船道がこの'RAVeL'の利用に供されている。'RAVeL'ではネットワークという発想が大変重要であり、近隣地区、近隣諸国ひいては EU 全体を視野に入れて、それらを相互に連結してゆく予定である。

'RAVeL'の道は、歩行者や自転車の利用者または障害者や条件によっては乗馬者などの特定の利用者に専用の、公共街路である。

同プロジェクトは、新たな移動ネットワークを構築するために、現在は使われていない数多くのコミュニケーションのインフラを再生させる目的をも有し、ひいては緑化ネットワークの構築や文化的遺産の重要部分を保護することにもつながっている。

都市部では、'RAVeL'が車両用道路に代わる信頼できる通行帯となっており、'Wallonia'では RGG(自動車用高速道路)、RESI (自動車用市内ネットワーク) に次ぐ第三の高速ネットワークとなっている。それは、'RAVeL'が単に余暇のゆっくりとした移動だけのためのものではなく、人々が職場や公共機関やお店へ向かう際の全体的な移動性を高めるための手段であるからである。

< 成果 >

1998 年にベルギーの道路交通法が改正され、'RAVeL'が新たな移動のための通行帯として同法で正式に承認された。

・(仮訳)

・(出典) Synthesis Report of the OECD project on Environmentally Sustainable Transport EST presented on occasion of the International est! Conference 4th to 6th October 2000 in Vienna, Austria.